

## ウィークリーChina No.75

2013.03.24

香港 花木

### ◎黄河の上流のある漢族イスラム教徒の町「銀川」

中国には一級行政区として広東省や江蘇省、北京市や上海市等 31 の省市がある。このうち北京、上海、天津、重慶という 4 つの直轄市を除く 27 の一級行政区の中で面積が一番小さいのが海南省、次いで寧夏回族自治区である。とは言っても、海南省でもその面積はほぼ九州並み、更に寧夏回族自治区はその約 2 倍弱あるのだが。。

このように面積の「小さい」寧夏回族自治区だが、ここを中心とする一帯にはかつて北宋～元にかけて「夏（西夏）」と称する別の国が存在し、西夏文字と呼ばれる漢字とは異なる文字を用いた文化が発達していた。このあたり一帯は広大な土漠地帯だが、そこを貫いて流れる黄河が町の発展をもたらし、王朝の成立を可能としたのである。王朝がチンギス・ハーンによって滅ぼされた後は、寧夏（亡き夏王朝を寧んじる）と名前を変え、徐々に西域の影響を受けつつイスラム化していった。現在、この地域に住む漢族（実際は漢族に西域のトルコ人、ペルシャ人、アラブ人等の混血とも言われるが、一般の漢族と外見上は見分けがつかない）の中にはイスラム教を信仰する者も多く、こうした「見かけは中国人だが生活スタイルや信仰はイスラム人」は回族として正式に少数民族に認定されている。



↑ 町を一步出るとこうした光景ばかり。(銀川と内モンゴルを結ぶ高速道路)

寧夏に住む回族は、見かけ上は完全な漢族だが、生活習慣・信仰習慣では完全なイスラム人である。話を聞いてみても、「漢人よりは同じイスラム教徒であるウイグル人に親近感を感じている」という人が多かったのには驚いた。ただ、ウイグル人と回族との決定的な違いは、ウイグル人が牧羊を中心としているのに対し、黄河流域に住む回族は黄河の恵みを受けてコメやトウモロコシ等の農業（最近ではクコの実の栽培も盛ん）で生計を立てていることだ。このことは重要で、牧羊を中心としたウイグル人が、もともと土地という概念があいまいなため、牧羊地に入植し鉱山開発や工場開発を行う漢人とうまくいかないことが多いのに対し、回族は漢人ともうまく共存しているようで、回族と漢族の貧富の格差もウイグル人と漢人に比べれば無視できるほど小さい。

回族のイスラム信仰は、宗教とはいえ「属人的」なものというよりは「集団的」なものである。回族一家に生まれた限り、イスラム教を信仰することが家族集団のきずなを守るために必須で、イスラム教を捨てたり改宗したりすることは考えられないという。漢族との通婚も非常に少なく、むしろウイグル族との通婚には抵抗がない等、外見上漢人と変わりないにもかかわらず中身はすっかりイスラム教徒というのが非常に日本人には理解しにくい存在である。とはいえ最近の若い回族は、学校生活や職場生活で知り合った漢人と恋愛することが自然に多くなり、「結婚相手はイスラム教徒しか認めない」という親世代との摩擦も増えているようだ。



↑ 街中にあるモスク。礼拝用品等のほか、ハラールフード等を販売する商店街もある。



←市内繁華街の様子は一般の漢族の町と変わらない。



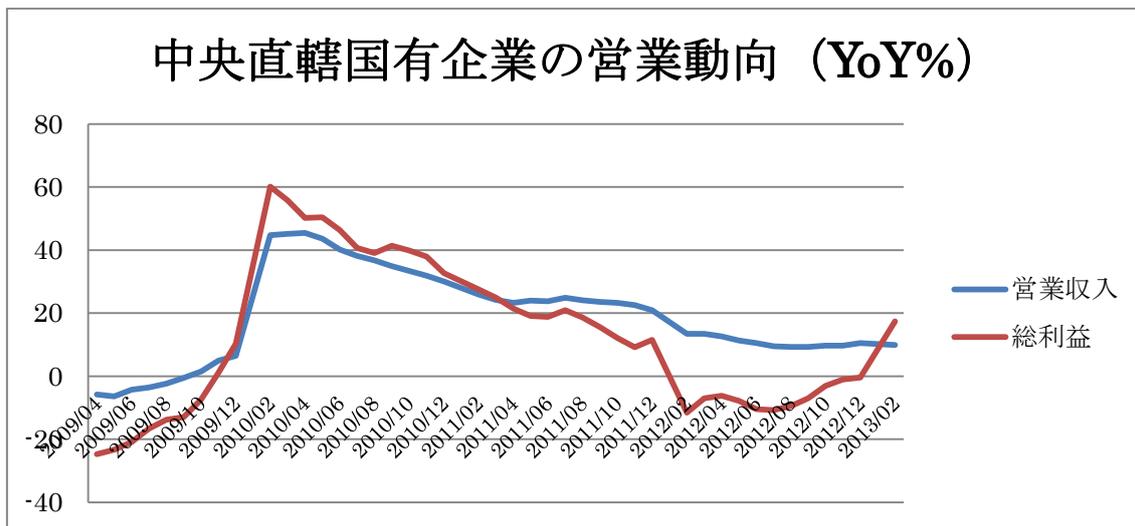
←銀川市中心部の天安門広場そっくりの「南門広場」



←回族はイスラム帽をかぶっている人、いない人がいる。

◎最新設備の導入と経営改善が進む中国の「国有企業」

中国財政部の発表によれば、中国の国有企業のうち中央直轄企業の昨年の営業収入は10.5%増、利益は0.5%減となったという。国有企業の営業動向は、2010年をピークとして厳しくなっており、このことが、目下、中の景気回復がもたついている大きな要因でもあろう。ただ、今年に入ってからこれは好転しつつある気配もある。



今回、各地で鉄鋼、化学、繊維、鉱山、自動車製造等、様々な業種の国有企業を訪問する機会があった。いずれの企業でも目についたのが、こうした厳しい経営環境の中で品質改善と経営合理化を推進することによって逆に企業体力をつけようとする姿だ。最新の設備を導入し、作業現場の人員削減と合理化を進め、現在の厳しい経営環境の中でも利益が出るよう経営管理を強化する一方で、これまで余り重視してこなかった輸出市場にも目を向けつつある業種もあった。設備自身はもちろん、制御機器やソフトウェア等も国産化が相当程度進んでいる。



↑ 内モンゴル自治区包頭市内から遠望した包頭鋼鉄の自家発電施設。

こうした印象は、決して素人である私の個人的なものにとどまらない。同行していた日本人の大学教授も、工場のレイアウトや設備の水準等がここ数年で相当先進的なものになってきているという印象を度々語っていた。また、特に自動車製造分野の国有企業には、日本の自動車会社を退職した OB が生産技術指導に多数携わっているが、こうした方目から見ても確かに中国国有企業の生産管理技術の向上は目覚ましいという。ある方によれば、日本の企業で採用されている生産管理技術評価制度に基づき評価すれば、「10年前の水準を 60 点程度とすると、3 年前で 12 点、現在は 3 点（数字が少ない方が生産性が高く無駄がない）」というほどの向上ぶりであるという。中国の国有企業でも、最近は、こうした生産管理技術評価制度を積極的に取り入れ、急速にキャッチアップが進んでいるのである。



←東風汽車（湖北省十堰市）の 2010 年に完成したばかりの新工場外観と生産ライン。

日本の大規模工場がほぼ沿海部にあるのに対して、中国の国有企業の工場はえてして内陸部にある。湖北省十堰市にある東風汽車の生産基地は、省都武漢市から西に 500km、高速鉄道で片道 4 時間の山の中にある。これは毛沢東時代に対ソ関係が緊張したことから進

められた「三線建設」政策の結果であるが、日本人の常識を覆すような立地であり、ここを訪れた多くの日本人技術者は、①工場がこれほどの山の中にあること、②しかもその生産ラインが非常に先進的であること、に衝撃を受ける人が多いということであった。

ただ、中国の製造業現場で今後更に品質を高め国際市場で競争していくうえでは、依然いくつかの課題があるという話も聞いた。一つは文化的なものだが個人プレーの土壌が濃厚であることだ。工場技術者同士で互いに技術や経験を共有し教えあうことに非常にネガティブであることで、背景には他人に技術を教えるとその分自分の値打ちが下がってしまうという発想が大きいことがある。重要な技術を独り占めすることによって自分の価値を高くし、転職によってステップアップを図ろうと常に考えているので、技術の共有がなかなか進まないというのである。ただ、こうした点もあくまで程度問題であり、生産改善の中で QC 活動等も一般化しており、大きな障害とまでは言えないだろう。実際、こうした傾向は中国に限ったものではなく、世界的にはむしろ普遍的な考え方と言えるかもしれない。更に、国有企業には「自作志向」が強いようで、部品だけでなく生産機械等の内製化も進めているものの、例えばエンジブロック加工機械のような精密機械になると、自作とはいえコアとなる部品（位置決め装置、モータ、駆動ベルト等）は日本や欧米からの輸入部品を使用せざるを得ず、結果的に製品価格が高いついてしまうという悩みもあるようだった。

国有企業が中国経済の重要領域で民間企業の参入を拒みつつ独占の果実を謳歌して成長していく、あるいは企業・経営内容にかかわらず低利の銀行資金を活用して低採算性事業に投入するといったことは、中国が経済成長する中で市場のゆがみをもたらす大きな原因とされてきた。同時に国際競争の中でもこうして国内で過剰利益を得た国有企業が低価格で製品・サービスを輸出するのではないかとの懸念も根強い。こうした従来の国有企業観は依然として多くの部分で当たっているかもしれないが。しかし国有企業の生産管理、製造技術はここ数年長足の進歩を遂げていることは事実で、この傾向は中国産業を見ていくうえで今後頭の中にしっかりと入れておかなければならない点もあるだろう。

東風汽車（旧第二汽車廠）の城下町十堰 →



◎在中国ドイツ商工会議所が緊急賃金調査を実施

在中国ドイツ商工会議所は3月4日から11日にかけて452の会員企業を対象とした賃金に関する緊急調査を実施し、その結果を3月12日にウェブサイトに掲載した。

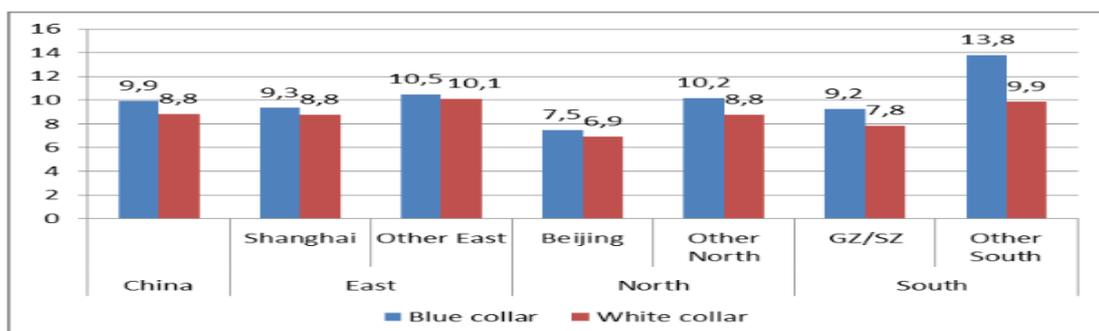
<http://china.ahk.de/news/single-view/artikel/flash-survey-on-wage-trends-2013/?cHash=b49183dd019febc6f60bfa190c568292>

調査のきっかけは、中国における最低賃金が今年に入ってから上昇し続けていることにある。3月上旬までに、既に以下の8省市が最低賃金の引き上げを発表しており、その平均上昇率は15%に達している。

広西壮族自治区	1000 元→1200 元 (20%)	山東省	1240 元→1380 元 (13%)
広東省	1300 元→1550 元 (19%)	浙江省	1310 元→1470 元 (12%)
陝西省	1000 元→1150 元 (15%)	北京市	1260 元→1400 元 (11%)
河南省	1080 元→1240 元 (15%)	深圳市	1500 元→1600 元 (6%)

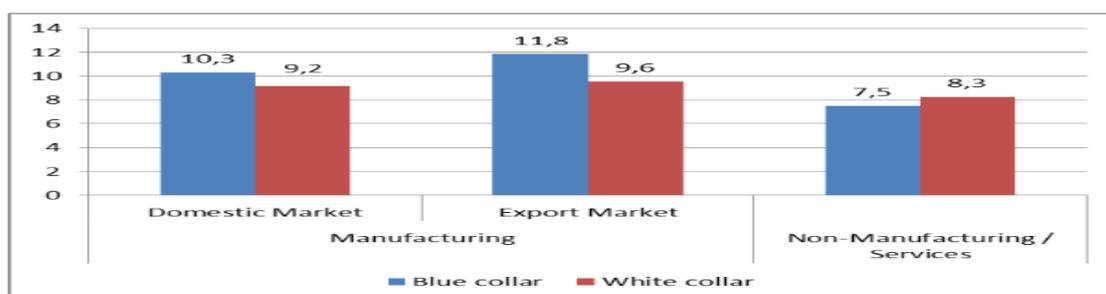
なお、同商工会会員企業の2013年賃金引上げ率の見通しを見ると、以下のように地域別では大都市以外の二線級都市で、また職種別ではブルーカラーで上昇率が高くなっている。更に、企業の種類で見るとサービス業より製造業、更に製造業の中でも内需向け企業より輸出型企業で賃金上昇幅が大きくなっているという結果となった。

3. Average Wage Increases by Region (in %)



↑ 2013年は何パーセントの賃上げを予想しているかとの問いに対する回答。

4. Average Wage Increases by Business Purpose (in %)



↑ 企業業種業態別の賃金上昇率見通し。

昨年第四四半期の有効求人倍率は過去最高の 1.08 にまで上昇、労働需給が引き締まる中で、中華全国総工会が最近行ったアンケート調査によれば、労働者の約 7 割が現状の給与に不満を抱いているとされる。また、出稼ぎ者が多く利用する求人サイト「大谷打工網」の調査でも、約半分以上が 3 割以上の給与引き上げを希望しているとの調査結果が出ている。今回の緊急調査の自由回答欄には、「賃金の上昇が生産性を上回る速度で進んでいるが、スタッフの転職を防ぐためには賃金上昇もやむを得ない」、「中国はもはや低賃金の国ではなくなった」、「90 年代生まれをどうマネージするかは企業にとって挑戦となっている」等、当たり前ではあるが、日本企業が感じていることと同じことをドイツ企業も感じていることが読み取れ、興味深い。

### ◎全人代が閉幕

3 月 5 日から北京で開催されていた第 12 期全国人民代表大会 (全人代) が 17 日閉幕し、国家・政府の幹部人事が出そろった。国家主席は胡錦濤氏から習近平氏へ、また国務院総理は温家宝氏から李克強氏へと当初予想どおり順当な移行がなされ、本格的に習李時代が幕開けしたことになる。

全人代では、国家主席や全人代常務委員長以下国家の役職、及び国務院総理以下政府の役職が決定され、更に政協幹部も決まったことから、これに伴い、各地方政府のトップである書記ポストの多くが空席となった。これに伴い、全人代終了後、多くの地方政府で人事異動が行われている。中でも注目されたのが黒竜江省長含みで同省副書記となった 1967 年生まれで共青団の次世代エースと目される陸昊前共青団第一書記、また人民銀行次期行長かと思われたが結局山東省長含みで同省副書記となった郭樹清前証券監督委员会主任、共青団の経験がない中で第一書記となった秦宜智前チベット自治区副主席といったところだろう。

### 国家機構新任幹部

国家発展改革委員会	 徐绍史主任	1951 年生まれ 前国土資源部長
国家民族事務委員会	 王正偉主任	1957 年生まれ 前寧夏自治区主席 2013 年政協副主席当選
財政部	 楼继偉部長	1950 年生まれ 前中国投資有限責任会社理事長

国土資源部	 姜大明部長	1953 年生まれ 前山東省省長
商務部	 高虎城部長	1951 年生まれ 前商務部副部長
国家衛生・計画委員会 主任	 李斌主任	1954 年生まれ 前安徽省省長
	 孫志剛副主任	1954 年生まれ 前国家發展改革委員会副主任
国有資産監督管理委員会	 蔣洁敏主任	1955 年生まれ 中国石油天然ガス集团理事長
	 張毅党委書記	1950 年生まれ 前寧夏回族自治区書記
国家稅務總局	 王軍局長	1958 年生まれ 前財政部副部長
国家工商行政管理總局	 張茅局長	1954 年生まれ 前衛生部副部長
国家新聞出版広電總局	 蔡赴朝局長	1951 年生まれ 前国家広報電影電視總局長

	 蒋建国副局长	1956 年生まれ 前新聞出版総署長
国家食品薬品監督管理総局	 張勇局長	1953 年生まれ 前国務院食品安全弁公室主任
国家海洋局	 劉賜貴書記	1955 年生まれ 前国家海洋局長
	 孟宏偉副書記	1953 年生まれ 公安部副部長併任
国家行政学院	 陳宝生書記	1956 年生まれ 前中央党校副校長
証券監督管理委員会	 肖鋼主席	1958 年生まれ 前中国銀行理事長
中華全国供銷協力総社	 王俠書記	1954 年生まれ 前国家人口計画委員会主任

### 共産党新任幹部

共青团中央	 秦宜智第一書記	1965 年生まれ 前チベット自治区副主席
-------	--	--------------------------

## 地方政府新任幹部

河北省	 <b>周本順書記</b>	1953 年生まれ 前中央政法委員会秘書長
黒竜江省	 <b>王宪魁書記</b>	1953 年生まれ 前黒竜江省省長
	 <b>陸昊副書記</b>	1967 年生まれ 前共青团第一書記
安徽省	 <b>王学軍副書記</b>	1952 年生まれ 前国家信訪局長
江西省	 <b>強偉書記</b>	1953 年生まれ 前青海省書記
山東省	 <b>郭樹清副書記</b>	1956 年生まれ 前国家証券監督管理委員会主席
河南省	 <b>郭庚茂書記</b>	1950 年生まれ 前河南省省長
	 <b>謝伏瞻副書記</b>	1954 年生まれ 前国务院研究室主任

湖南省	 徐守盛書記	1953 年生まれ 前湖南省省長
	 杜家毫副書記	1955 年生まれ 前黒竜江省副書記
広西チワン族自治区	 陳武副書記	1954 年生まれ 前南寧市書記
青海省	 駱惠寧書記	1954 年生まれ 前青海省省長
	 郝鵬副書記	1960 年生まれ 前チベット自治区副書記
寧夏回族自治区	 李建華書記	1954 年生まれ 前国家行政学院副院長
	 劉慧副書記	1959 年生まれ 前寧夏自治区副主席